

「カーボンクレジットが生まれる現場と 地元コミュニティ・生物多様性」



コンサベーション・インターナショナル(CI)

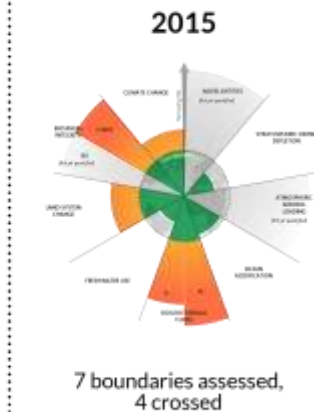
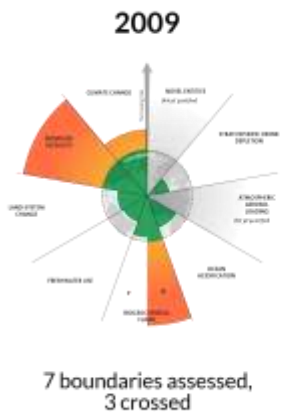
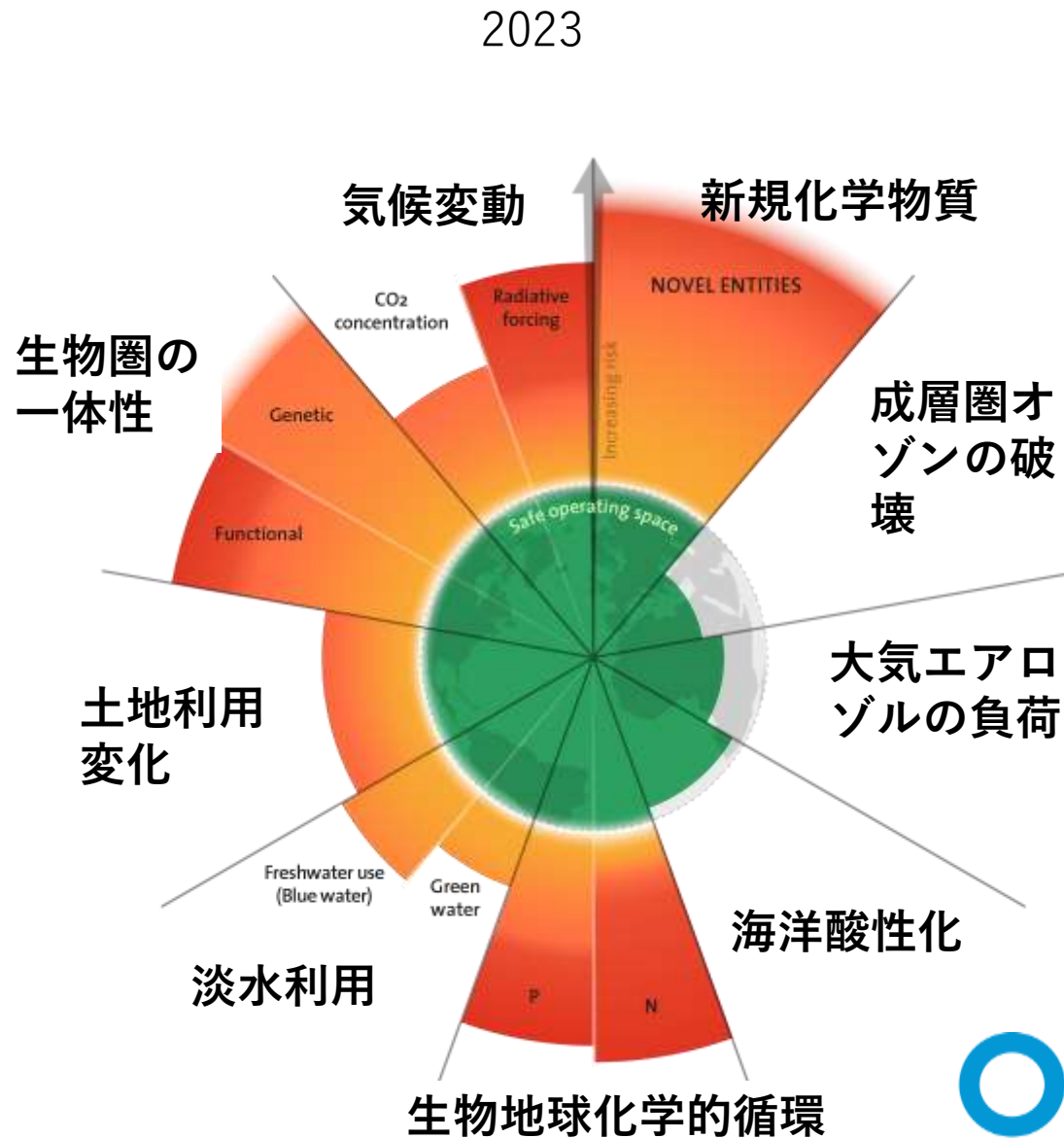
自然を守ることは、人間を守ること

- 設立：1987年
- 本部：米国ワシントンD.C.

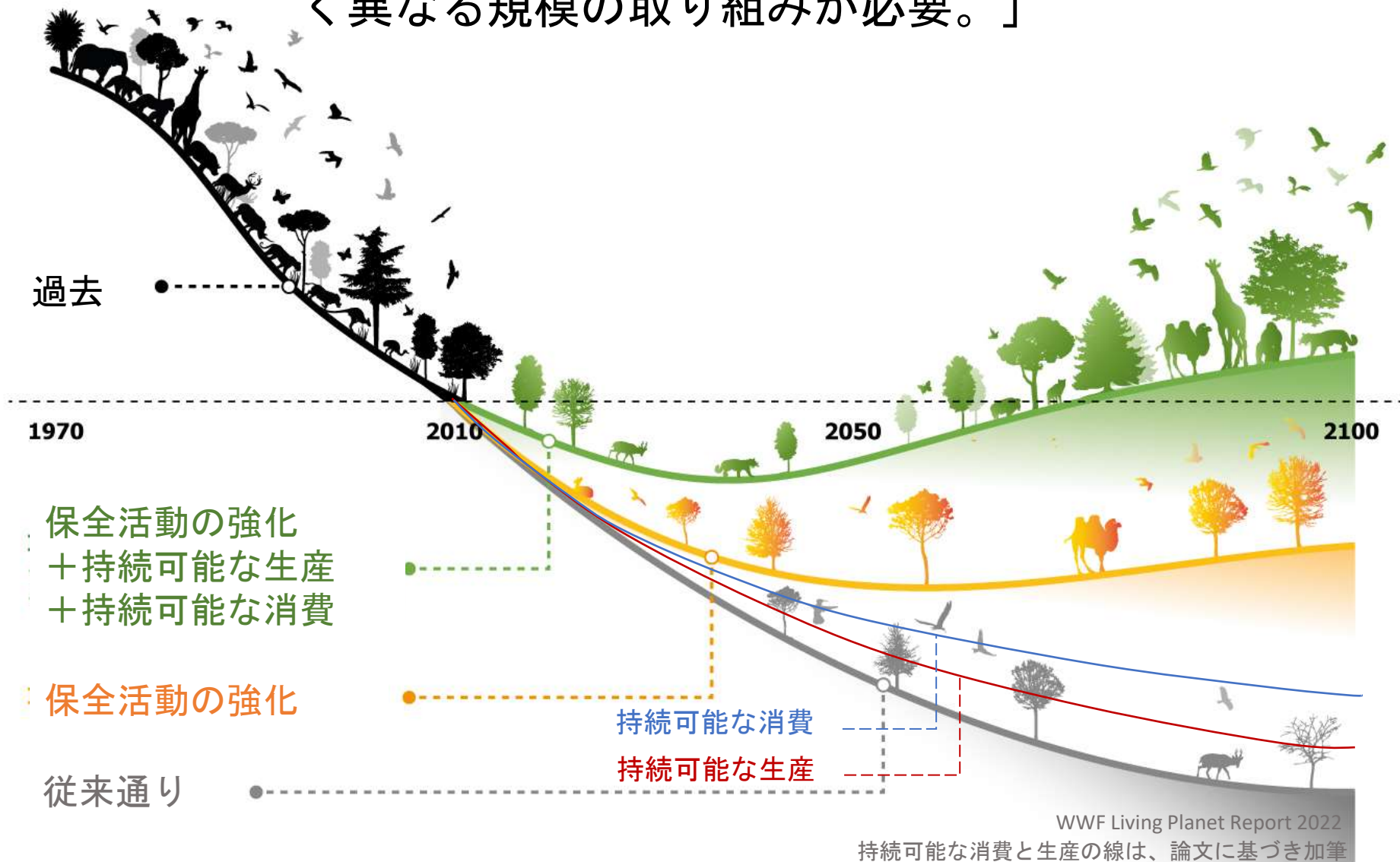
- 拠点数：世界31ヵ国
- 活動国・地域：>世界70ヶ所
- 生物多様性ホットスポット

プラネタリー・バウンダリー（地球環境容量）

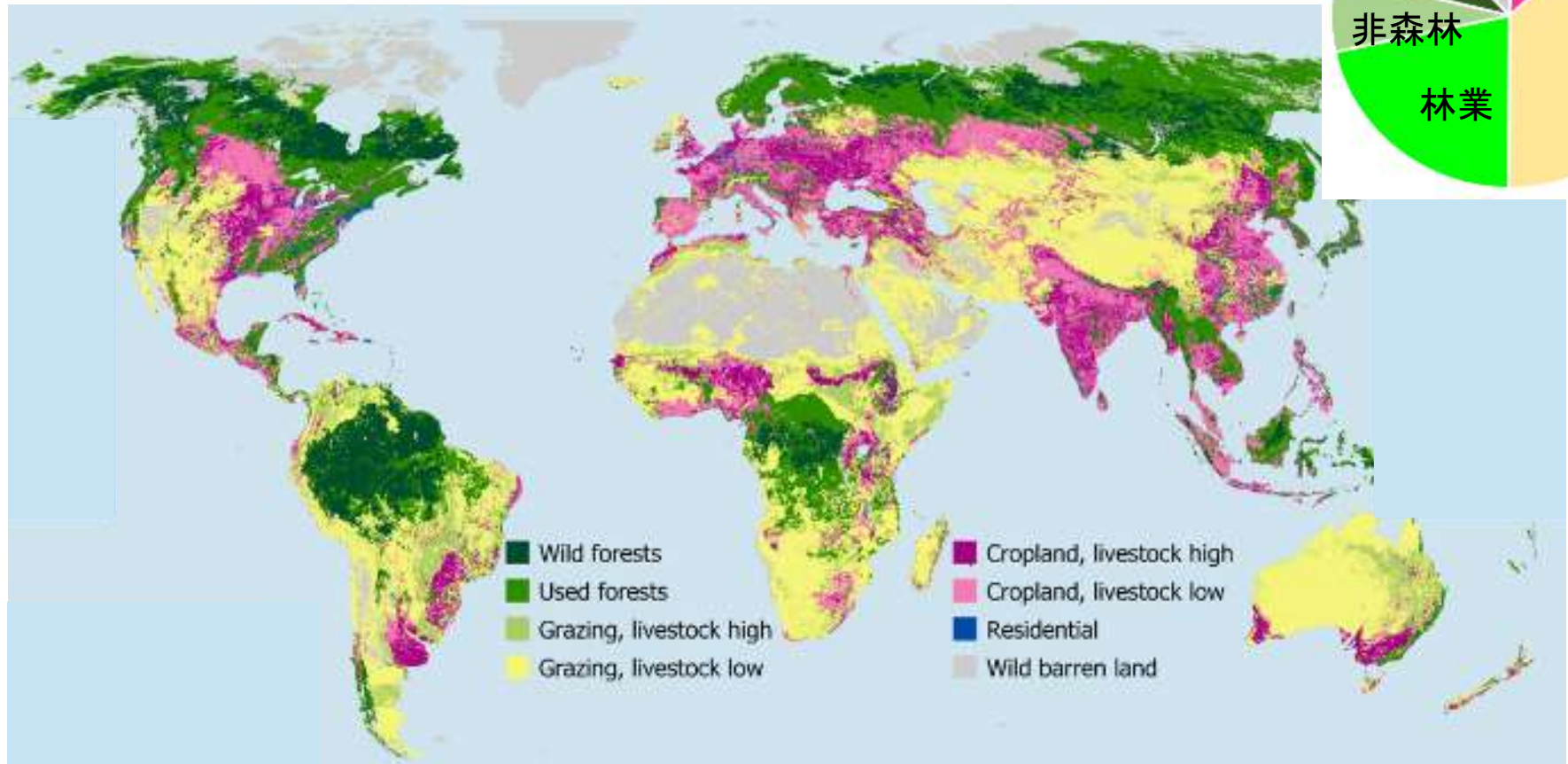
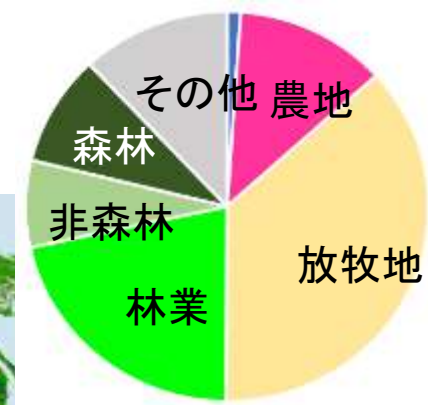
- 9つの地球環境側面について、人間が将来にわたり安全に活動することができる範囲・限界を評価したもの。
- 2015年の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）にも大きな影響を与えた。
- 2023年、初めて9項目の評価が出揃った。
- 6項目で限界を超過。



「生物多様性の損失を食い止め、反転させることは、不可能ではないが、その実現には、これまでとは全く異なる規模の取り組みが必要。」



世界の土地利用

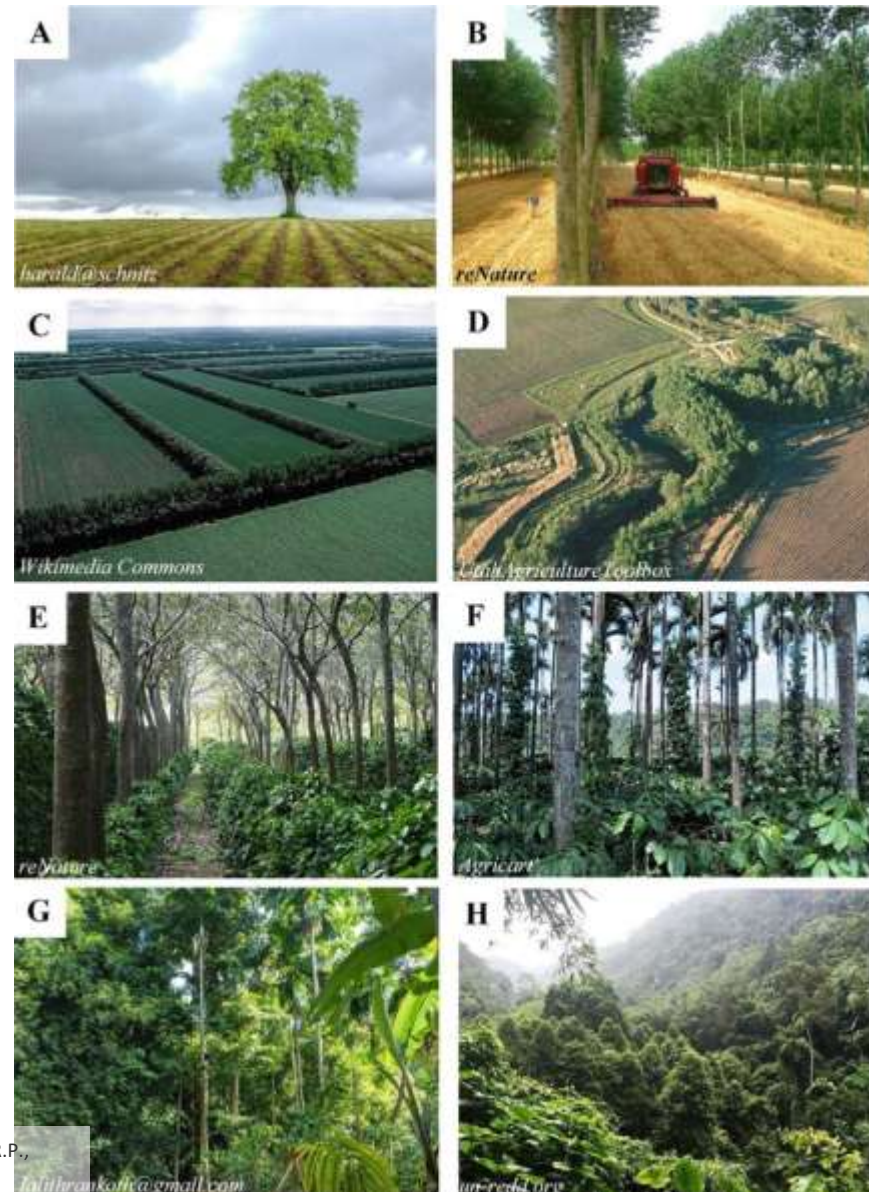


- 陸地の3/4は利用地
- 森林の60–85%は利用されている
- 大規模な未利用(天然)森林は熱帯と北方に存在

出典: IPCC Special Report on climate change, desertification, land degradation, sustainable land management, food security, and greenhouse gas fluxes in terrestrial ecosystems (2019)

自然由来のクレジットにおける様々な「自然」

- 「自然」のタイプ
 - 生物多様性の豊かさ、その他の生態系サービスの種類・大きさが異なる。
- 「自然」の変化の向き
 - すでに劣化した場所を回復する。
 - 劣化の危機に直面している場所で、劣化を食い止める。
 - 一旦失われた自然を元の状態に戻すのは不可能。
 - 元の状態に近づけるには多大な時間とコストを要する。



自然由来のクレジットの2つの側面

□ 気候変動対策（代替可能な二酸化炭素として）

- 技術革新を必要とせず、今すぐに実施可能。
- 大規模に実施できるポテンシャルを有する。
 - パリ協定目標達成のために2030年までに削減が必要とされる30ギガ（300億）CO₂トンのうち、自然は11ギガトン分を削減・吸収するポテンシャルがある。（Griscom, et al. 2017）

1トンの価値
は等価

□ クレジットを通じて、自然資本に投資

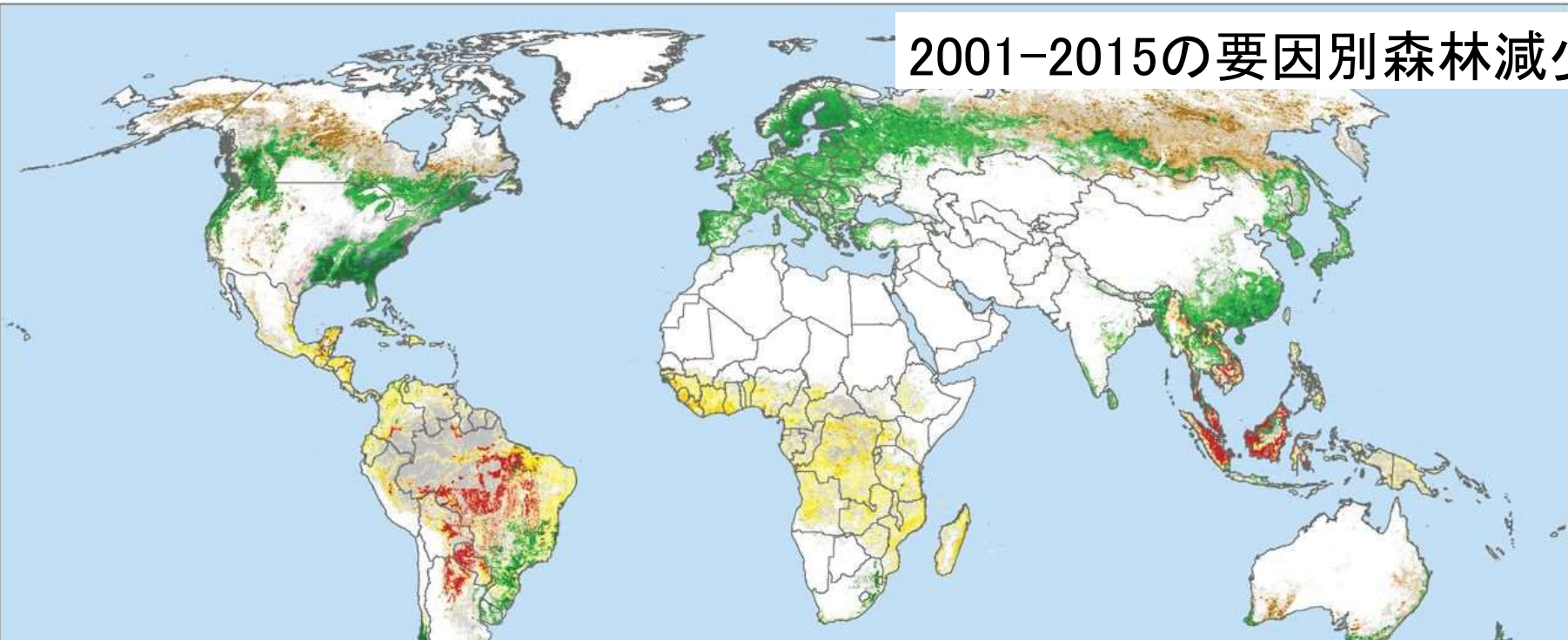
- 自然の劣化を食い止め、回復させる。
 - どのような自然か？
 - 従来通り（ベースライン）に比較して、どのようなインパクトを生み出せるか？

1トンに相当する
価値は様々



森林減少の要因

2001-2015の要因別森林減少

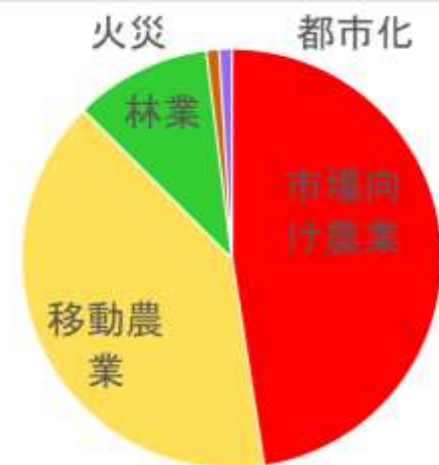


中南米・アフリカ・東南アジア

■ 市場向け農業 ■ 移動農業 ■ 林業 ■ 火災 ■ 都市化

(出典) Philip G. Curtis et al. Science 2018;361:1108-1111

- 中南米・アフリカ・東南アジア
 - 農業が89%、林業が10%



現地の状況

- 国レベル、世帯レベル共に多くの選択肢がない。
- 住民の多くが農家
 - 市場向け農作物生産
 - 自給用作物生産
- 貧困状態
- 医療・教育等の生活基盤が未整備



森林を農地転換 開発の必要性

森林保全とコミュニティ開発は両輪



CIとREDD+

- 保全を実施するための持続可能な資金源として、長年REDD+を活用
- 現在も、様々なステージにあるNatural Climate Solutions (NCS) 案件に多数取り組む
- 関わり方: 現地での実施、クレジット創出、マーケティング、ファンド形成



カンボジアにおけるREDD+

“Prey Lang” = Our Forest

□ カンボジア

- 面積：18万平方キロメートル
- 人口：17百万人
- 主要産業：農業、工業、サービス業
- 経済：2011-2019 年7%成長
- 後発途上国（LDC）を2027に卒業の予定



□ プレイロング野生生物保護区（黄色矢印）

- 約45万ヘクタール
- 低地常緑樹・落葉樹林（インドシナ最大級）
- メコン川とトンレサップ湖の水源地の一つ
- 2016年に保護区化
- アクセスが容易で、非常に高い圧力（農地転換、土地収奪、コンセッション、違法伐採、密猟）
- 2018年に、カンボジア政府・三井物産・CIのパートナーシップ開始





森林減少の要因と対策



- 住民による小規模な農地転換
- 商業作物栽培のための農地転換
- 土地収奪
- 違法伐採



- 貧困
- 保全と開発の断絶
- 保護区管理能力・スキルの不足



- 農業支援
- 小規模ビジネスの開発
- 保護区管理の能力・実施支援

農業支援（IBIS RICE = トキ米）



地元NGO (Sansom Mlup Prey) との連携

- コミュニティによる野生生物に優しい製品の推進を目的に、2009年に設立。
- 営利部門のIbis Rice Conservation Co. Ltd は、欧州等への輸出実績も豊富。

IBIS RICEの取り組み

□ 現地の体制づくり

➤ Village Marketing Network (VMN) 委員会

- 参加農家から選ばれる委員
- 稲作のルール遵守の推進、知識・技術の移転を担い、各種手続き・作業(種子配布、水田準備、契約書署名等)を牽引

□ 米の種子を配布

➤ 収量が高く、市場での価格に優れる品種



IBIS RICEの取り組み

□ 農業トレーニング

- 土壌改良、害虫・土壌栄養素管理、整地、種子生産等々

□ 農家との契約、農業日誌のトレーニング

- ルールを遵守し、農業活動を日誌に記録することが求められる
- 内部、外部による検査

□ 土地情報の収集、米の売買契約

- 登録された区画からの米だけを買う
い取る契約





地域の力



ありがとうございました

